

都市再生整備計画 事後評価シート
流山おおたかの森駅周辺地区

令和5年3月

千葉県流山市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県	市町村名	流山市	地区名	流山おおたかの森駅周辺地区			面積	347ha
交付期間	平成29年度～令和3年度	事後評価実施時期	令和4年度	交付対象事業費	998.0	国費率	0.471		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名						
	基幹事業	提案事業	【地域生活基盤施設事業】地域防災施設整備事業(大堀川水辺公園、西初石近隣公園、十太夫近隣公園)、地域情報版整備事業(おおたかの森駅前、セントラルパーク駅前) 【高質空間形成施設】歩行支援施設整備事業(おおたかの森駅エレベーター)、緑化施設等整備事業(おおたかの森駅北口)、太陽光照明整備事業(大堀川水辺公園、西初石近隣公園、十太夫近隣公園)						
	基幹事業	提案事業	事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路緑化事業(市道112号、市道296号)	予定箇所の沿線関係者・住民の理解、同意を得られなかったため。	指標2、3に関係するが、影響は少ないと思われる。				
	新たに追加した事業	基幹事業	【公園】街区公園整備事業(運動公園周辺地区街区公園(1-3,5-7号)、西平井・鰯ヶ崎地区3号街区公園、鰯ヶ崎・思井地区1号街区公園、西初石近隣公園)	子育て世代のコミュニティ拠点の機能かつ災害時の一時避難地としての役割や、区域内の避難動線を補完する緑のネットワークを形成する公園整備事業を追加することで、安全性、利便性、快適性、通学環境を改善させるため。	指標2、3、5に関係すると共に、小目標②「暮らしやコミュニティに配慮した快適で魅力あるまちづくり」に寄与するもの。				
【公園】公園施設整備事業(総合運動公園再整備)			子育て世代の増加に伴う市民要望に対応するため、本市の基幹公園である総合運動公園内に遊具施設を新たに整備する計画。子どもや子育て世代のコミュニティ拠点となるよう地域の活性化に貢献し、目標・指標の改善への貢献を見込む。	指標2、3、5に関係すると共に、小目標②「暮らしやコミュニティに配慮した快適で魅力あるまちづくり」に寄与するもの。					
【地域生活基盤施設事業】緑地整備事業(西平井・鰯ヶ崎地区緑地(2-4号)、鰯ヶ崎・思井地区緑地(1-3号))			区域内の避難動線を補完する緑のネットワークを形成する公園整備事業を追加することで、安全性、利便性、快適性、通学環境を改善する。	指標2、3、5に関係すると共に、小目標②「暮らしやコミュニティに配慮した快適で魅力あるまちづくり」に寄与するもの。					
【高質空間形成施設】緑化施設等整備事業(おおたか駅前都市広場(北口、南口)、市野谷水鳥の池照明整備、小山さくら通り植栽整備)			賑わい空間の創出、良質な景観形成等により、交流空間としての利便性、快適性を高めるため。	指標2、3に良い影響を与える。					
【高質空間形成施設】公衆トイレ整備事業			子育て世代の増加に伴う市民要望かつ災害時の一時避難地としての役割に対応するため。	指標2、3、5に関係すると共に、小目標①「人口増加に対応した安心安全なまちづくり」に寄与するもの。					
	提案事業								
	交付期間の変更	当初	平成29年度～平成33年度	変更	なし	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			

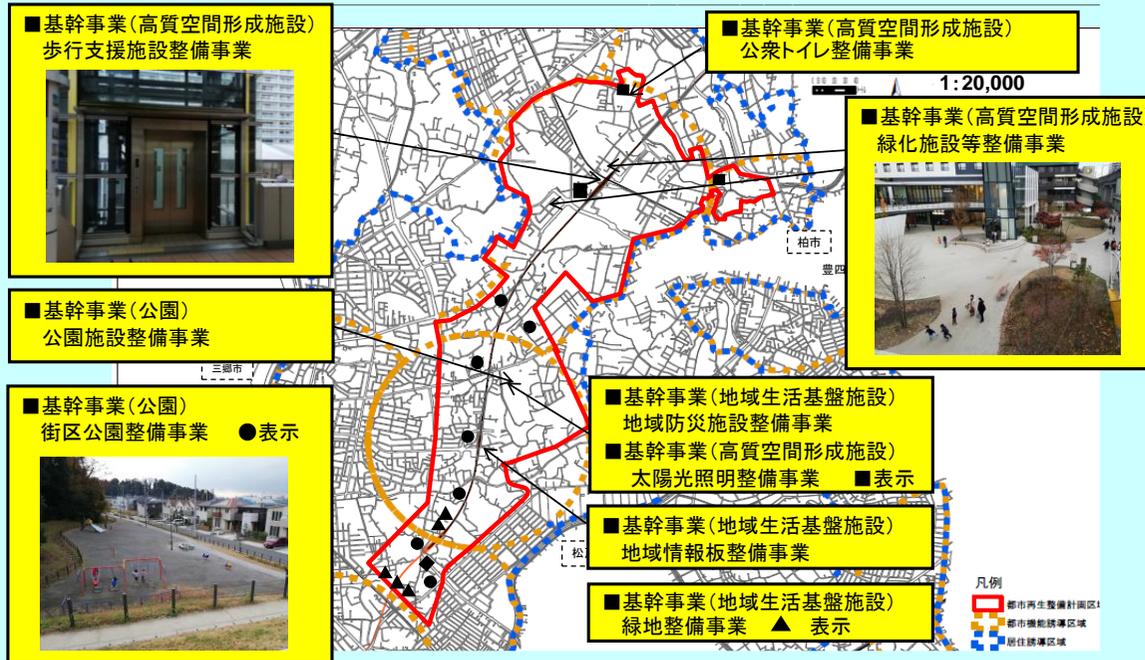
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	従前値	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	市況	市況	市況	市況	市況	市況						
指標1	市内の駅等がバリアフリーになっていると思う人の割合	%	62.3%	H27	67.3%	R3	—	59.0%	×	あり なし	駅のエレベータ設置により、バリアフリー化を推進したが、目標達成には至らなかった。本計画内では駅にエレベータを設置したが、アンケートでは市内の駅・道路・施設のバリアフリー度を尋ねており、結果への影響が表れにくかったことが要因と考える。	-
指標2	住み心地が良いまちだと思う人の割合	%	32.6%	H27	40.0%	R3	—	39.6%	△	あり なし	わずかに目標値に至らなかったが概ね目標値に達しており、公園や緑地の整備、駅前広場の整備、防災設備の整備により、住環境が向上したものと考える。	-
指標3	住み続けたいと思う人の割合	%	44.0%	H27	51.4%	R3	—	43.6%	×	あり なし	アンケートにおいて「当分は住み続けたいと思う人の割合が従前値より上昇した。本指標は「ずっと住み続けたい」と思う人のみを指標値として設定したため目標達成には至らなかったが、公園や緑地の整備、駅前広場の整備、防災設備の整備により、まちの賑わいや安全性は向上し、事業効果があったものと考えられる。	-
指標4	流山おおたかの森駅の利用者	人	59,844人	H27	70,000人	R3	—	57,755人	×	あり なし	魅力あるまちづくりを行ったが、コロナ禍により鉄道利用者が減ったこともあり、目標達成には至らなかった。	-
指標5	子育てがしやすいまちだと思う人の割合	%	21.6%	H27	26.9%	R3	—	34.5%	○	あり なし	公園の遊具や駅のエレベーターなど、子育て世代に有効活用される設備が整備され、高い数値目標を得ることができた。	-

	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
	その他の 数値指標1	その他の 数値指標2		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	住み続けたいと思う人の割合 (ずっと+当分は住み続けたい)		%	84.2%	H27			90.6%				指標3に関連する事業によりまちの賑わいや安全性が 向上し、住み続けたいと思う人の割合が上昇した。	-
	その他の 数値指標2	-	-	-	-			-				-	-
	その他の 数値指標3	-	-	-	-			-				-	-
4)定性的な効果 発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	-			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-				
	官民連携による取組	流山おおたかの森駅北口都市広場整備に先立ち、隣接する民間 が所有する広場と一体的な歩行空間として整備を実施し、効率的 かつ効果的な空間形成の構築を行った。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				○	広場の維持管理について効率化を図る。			
	持続的なまちづくり 体制の構築	-			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-				

様式2-2 地区の概要

流山おおたかの森駅周辺地区(千葉県流山市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標:安全で良質な交通結節点をめざしたいつまでも住み続けたいまちづくり 小目標①:人口増加に対応した安心安全なまちづくり 小目標②:暮らしやコミュニティに配慮した快適で魅力あるまちづくり	市内の駅等がバリアフリーになっていると思う人の割合 単位:%	62.3%	H27 67.3%	R3 59.0% R3
	住み心地が良いまちだと思ふ人の割合 単位:%	32.6%	H27 40.0%	R3 39.6% R3
	住み続けたいと思ふ人の割合 単位:%	44.0%	H27 51.4%	R3 43.6% R3
	流山おおたかの森駅の利用者 単位:人	59,844人	H27 70,000人	R3 57,755人 R3
	子育てがしやすいまちだと思ふ人の割合 単位:%	21.6%	H27 26.9%	R3 34.5% R3



まちの課題の変化

・選ばれるまちとして更なる発展を目指し、より一層まちの魅力を高めていくため、快適性を向上させる施設や地域防災施設を整備する
 →公園・緑地・トイレの整備により、子育て世代のコミュニティ拠点として快適な空間を創出すると共に、災害時における一時避難地を確保した。
 ・暮らしやコミュニティに配慮した快適で魅力あるまちづくり
 →流山おおたかの森駅前広場における施設整備による都市機構の強化で、賑わい創出は一定程度図られた。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

・当該計画によって整備した公園・緑地・トイレなどを適切に維持管理していく。
 ・駅前広場が文化交流機能の拠点として有効活用が図られ、より利用しやすい施設として活用されるよう工夫していく。
 ・令和4年度から同様の地域を対象とした計画において以下の事業が実施されており、人口増に対応した快適性の向上に向けた整備を継続していく。
 ○土地区画整理事業の進捗に合わせ、総合運動公園のスポーツ施設を含む公園全体の再整備や、公園・緑地等の整備を進め、市民の憩いの場を増やしていく。
 ○流山おおたかの森駅近隣のセンター地区道路を整備することで、歩行者の安全確保とまちの回遊性を創出し、地域住民の快適性を向上させ、市民の憩いの場を増やしていく。
 ・まちの魅力や価値を高め、市民が誇りや愛着を持てるまちづくりのため、流山おおたかの森駅前広場のセンター地区まちなみづくり指針に則り、近隣の商業施設をはじめとした官民が連携し、「森のまち」を感じる一体感のある空間づくりを実施していく。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- ・国土交通省の「都市再生整備計画等 評価の手引き 令和4年度版」に則り、適切に作成されている。
- ・該当駅を利用する市民を対象としていることからその評価に一定の妥当性は認められるが、理想的には本計画の事業地・事業内容についてその利用者を対象に個別に効果検証が行われるべき。

- 添付様式3-② 官民連携による取組みの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標	●		<ul style="list-style-type: none"> 安心安全な市街地の整備を推進するため、地域防災施設や緑化施設等の整備を推進する。 人口増加に対応した歩行支援施設整備による交通結節点の改善を推進する。 	大目標:安全で良質な交通結節点をめざしたいつまでも積み続けたいまちづくり 小目標①:人口増加に対応した安心安全なまちづくり 小目標②:暮らしやコミュニティに配慮した快適で魅力あるまちづくり	制度改正及び市総合計画の策定に伴い変更
B. 目標を定量化する指標	●		指標1:市内の駅等がバリアフリーになっていると思う人の割合 指標2:住み心地が良いまちだと思う人の割合 指標3:住み続けたいと思う人の割合 指標4:流山おおたかの森駅の利用者	指標1:市内の駅等がバリアフリーになっていると思う人の割合 指標2:住み心地が良いまちだと思う人の割合 指標3:住み続けたいと思う人の割合 指標4:流山おおたかの森駅の利用者 指標5:子育てがしやすいまちだと思う人の割合	指標5:子育てがしやすいまちだと思う人の割合を追加
C. 目標値	●		①住み心地が良いまちだと思う人の割合 37.6% ②住み続けたいと思う人の割合 49.0% ③流山おおたかの森駅の利用者 69,000人 ④子育てがしやすいまちだと思う人の割合 23.6%	①40.0% ②51.4% ③70,000人 ④26.9%	事業の追加等に伴い修正
D. その他()					

地域生活基盤施設	地域防災施設整備事業	マンホールトイレ	29	10箇所	23	10箇所	設置数の変更	指標3、小目標①に良い影響を与える	●
		災害用井戸		3箇所		2箇所		指標3、小目標①に良い影響を与える	●
		かまどベンチ		12箇所		12箇所		指標3、小目標①に良い影響を与える	●
		避難所等案内板		3箇所		3箇所		指標3、小目標①に良い影響を与える	●
地域情報版整備事業	流山おおたかの森駅前地域情報版	9	6基	19	11基	基数及び事業費の増加	指標2、3、4に良い影響を与える	●	
	流山セントラルパーク駅前情報版	2	1基	2	1基		指標2、3に良い影響を与える	●	
緑地整備事業	西平井 鱒ヶ崎地区2号緑地			10	植栽(低木・中木・高木)、遠路整備、遊具施設	区域内の避難動線を補完する緑のネットワークを形成する公園整備事業を追加することで、安全性、利便性、快適性、通学環境を改善する。	指標2、3、5に良い影響を与える	●	
	西平井 鱒ヶ崎地区3号緑地			5	植栽A=1,379㎡、W=11m		指標2、3、5に良い影響を与える	●	
	西平井 鱒ヶ崎地区4号緑地			6	休憩施設、遠路広場舗装A=306㎡、W=11m		指標2、3、5に良い影響を与える	●	
	鱒ヶ崎 思井地区1号緑地			46	植栽(低木、地被類)		指標2、3、5に良い影響を与える	●	
	鱒ヶ崎 思井地区2号緑地			5	植生シートA=900㎡、模擬柵L=35m		指標2、3、5に良い影響を与える	●	
	鱒ヶ崎 思井地区3号緑地			20	植栽(低木、地被類)		指標2、3、5に良い影響を与える	●	
高質空間形成施設	歩行支援施設整備事業	流山おおたかの森駅自由通路エレベーター	90	1基	69	1基	事業費の減額	指標1、2、3、4、5に良い影響を与える	●

		流山おおたかの森駅北口都市広場	20	A=1,330㎡、L=190m、W=8.5m、植栽帯及び植栽マス	35	植栽工、インターロッキングA=880㎡、照明7基、ベンチ4基、車止め4基	事業の追加	指標2、3、4に良い影響を与える	●
		流山おおたかの森駅南口都市広場			270	植栽工、インターロッキングA=2,720㎡、照明43基、給排水施設整備工、ベンチ等36基		指標2、3、4に良い影響を与える	●
	緑化施設等整備事業	市野谷水鳥の池照明施設			5	25基		指標1、5に良い影響を与える	●
		小山さくらっ子通り			0	植栽工400m	良質な景観形成と歩行者の回遊性・快適性の向上を図るもの	未実施 指標2、3に関連するが影響は小さいと思われる	●
		太陽光照明整備事業	6	6基	6	6基		指標3、小目標①に良い影響を与える	●
	道路緑化事業(市道112号、296号)		8	190m	0	0m	地元との協議の結果、事業実施は困難と判断されたため削除	未実施 指標2、3に関連するが影響は小さいと思われる	●
	公衆トイレ整備事業(十太夫近隣公園)				14	男性用(小便器1基、大便器1基、手洗い1基)、女性用(大便器1基、手洗い1基)、多目的用	子育て世代の増加に伴う市民要望かつ災害時の一時避難地として役割に対応するため、公園敷地中央部に、バリアフリー対応の新設トイレを設置する。	指標2、3、5に良い影響を与える	●
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影 響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環 境整備事業									
優良建築物等 整備事業									
住宅市街地 総合整備 事業									
街なみ環境整 備事業									
住宅地区改良 事業等									
都心共同住宅 供給事業									
公営住宅等整 備									
都市再生住宅 等整備									
防災街区整備 事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)	目標値 (ウ)	目標年度	数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度	基準年度				モニタリング	事後評価	達成見込み	達成度	あり	なし		
指標1	市内の駅等がバリアフリーになっていると思う人の割合	%	-	-	62.3%	H27	67.3%	R3	モニタリング			モニタリング			○
									事後評価	確定見込み ●	59.0%	事後評価	×		
指標2	住み心地が良いまちだと思ふ人の割合	%	-	-	32.6%	H27	40.0%	R3	モニタリング			モニタリング		○	
									事後評価	確定見込み ●	39.6%	事後評価	△		
指標3	住み続けたいと思ふ人の割合	%	-	-	44.0%	H27	51.4%	R3	モニタリング			モニタリング		○	
									事後評価	確定見込み ●	43.6%	事後評価	×		
指標4	流山おおたかの森駅の利用者	人	-	-	59,844人	H27	70,000人	R3	モニタリング			モニタリング		○	
									事後評価	確定見込み ●	57,755人	事後評価	△		
指標5	子育てがしやすいまちだと思ふ人の割合	%	-	-	21.6%	H27	26.9%	R3	モニタリング			モニタリング		○	
									事後評価	確定見込み ●	34.5%	事後評価	○		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	目標値に届かず、従前値の数値を下回ってしまった。	なし
指標2	目標値にはわずかに届かなかったが、従前値よりも数値は上がっている。	なし
指標3	目標値に届かず、従前値の数値を下回ってしまった。	指標値の取得において、「ずっと住み続けたい」という回答のみを使用したところ、左記の結果となったが、「当分は住み続けたい」という回答も含めると従前値より上昇している。このことから、「住み続けたい」と思う人は増加している。今後、指標値の設定の際には使用する回答の選択肢にも留意したい。
指標4	目標値に届かず、従前値の数値を下回ってしまった。	なし
指標5	目標値を大きく上回る数値となった。	なし

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度		基準年度						
その他の数値指標1	住み続けたいと思う人の割合(ずっと+当然住み続けたい)	%	79.2%	H24	84.2%	H27	モニタリング			90.6%	指標3が従前値を下回る結果となったが、「住み続けたい」と思う人の実態を反映していなかったため。
							事後評価	確定	○		
その他の数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定			
その他の数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

駅周辺の整備により人流が増加し、大型店舗の出店により駅周辺地域が大きく発展した。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
流山おおたかの森駅北口都市広場	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 広場整備に先立ち、隣接する民間が所有する広場と一体的な歩行空間として整備を実施し、効率的かつ効果的な空間形成の構築を行った。	広場の維持管理について効率化を図る。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内関係各課	関係各課の担当者(まちづくり推進課、みどりの課、防災危機管理課、道路建設課、企画政策課)	令和4年10～11月	総合政策部企画政策課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標5		指標		指標		指標	
指標名		子育てがしやすいまちだと思ふ人の割合							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	街区公園整備事業	◎	公園や緑地、駅前広場の整備により、賑わいのあるまちが創出された。公園の遊具や駅のエレベーターなど、子育て世代に有効活用される設備が整備され、高い数値目標を得ることができた。						
	公園施設整備事業	◎							
	地域防災施設整備事業								
	地域情報版整備事業								
	緑地整備事業								
	歩行支援施設整備事業	◎							
	緑化施設等整備事業	◎							
	道路緑化事業								
	太陽光照明整備事業								
公衆トイレ整備事業									
提案事業									
関連事業									

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	引き続き有効活用が期待される。今後も快適に利用できるよう、適切な維持管理を行っていく。				
-------	---	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3			指標4		
指標名		市内の駅等がバリアフリーになっていると思う人の割合			住み心地が良いまちだと思ふ人の割合			住み続けたいと思ふ人の割合			流山おおたかの森駅の利用者		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	街区公園整備事業		エレベータ設置によりバリアフリー化が推進され、利便性が向上したが、目標を達成することが出来なかった。	Ⅲ	△	公園や緑地、駅前広場の整備により賑わいが創出された。バリアフリー化の推進などによりまちの魅力度が向上し、高い数値を得られたが、目標を達成することが出来なかった。	Ⅲ	△	公園や緑地、駅前広場の整備により賑わいが創出された。また、防災設備の整備による安心安全なまちづくりや、バリアフリー化の推進によりまちの魅力度は向上したが、従前値を下回る数値となり、目標を達成することが出来なかった。	Ⅲ	△	駅前広場の整備により賑わいが創出された。バリアフリー化の推進によりまちの魅力度が向上したが、コロナ禍もあり、従前値を下回る数値となり、目標を達成することが出来なかった。	Ⅲ
	公園施設整備事業				△								
	地域防災施設整備事業				△								
	地域情報版整備事業				△								
	緑地整備事業				△								
	歩行支援施設整備事業	△			△								
	緑化施設等整備事業				△								
	道路緑化事業				△								
	太陽光照明整備事業				△								
公衆トイレ整備事業		△											
関連事業													

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	エレベータ利用実態を把握し、必要に応じて輸送力の向上を検討する。	滞留空間の充実や、大人が時間を費やせる場所や機能について検討する。予想よりも数値が上がらなかったことから、施設整備以外の取組みの必要性も含め検討する。	「住み続けたい」と考える人の割合自体は増加傾向にあり、引き続き、滞留空間の充実や、大人が時間を費やせる場所や機能について検討する。結果として予想よりも数値が上がらなかったことから、施設整備以外の取組みの必要性も含め検討する。	滞留空間の充実や、大人が時間を費やせる場所や機能について検討する。
------------------	----------------------------------	---	--	-----------------------------------

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内関係各課	関係各課の担当者	令和4年10～11月	総合政策部企画政策課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
選ばれるまちとして更なる発展を目指し、より一層まちの魅力を高めていくため、快適性を向上させる施設や地域防災施設を整備	公園・緑地・トイレの整備により、子育て世代のコミュニティ拠点として快適な空間を創出すると共に、災害時における一時避難地を確保した。	土地区画整理事業の進捗に偏りがあり、地区縁辺部等では、公園などが不足している。	なし
暮らしやコミュニティに配慮した快適で魅力あるまちづくり	流山おおたかの森駅前広場における施設整備による都市機構の強化で、賑わい創出は一定程度図られた。	なし	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	公園・緑地・トイレの維持管理	市民が住み心地が良い、住み続けたいと実感できるよう、公園・緑地・トイレの清掃や草刈等を適切に行い、快適に利用できる環境を維持し、良質な住環境の形成に努めていく。	みどりの維持管理事業
	施設の利便性向上及び有効活用	駅前広場が文化交流機能の拠点として官民のさまざまな事業が行われ、市民に親しまれる場所となることで、より利用しやすい施設となるよう工夫していく。滞留空間としての充実や、大人が時間を費やせる場としての活用を図ることで、駅利用者を含むさまざまな利用者の満足度上昇を期待する。	広場整備の拡張、緑地整備

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	人口増に対応した快適性を向上させる施設の整備	土地区画整理事業の進捗に合わせ、公園・緑地等の整備を進めていく。	公園事業
	商業施設と協力し、更なる賑わいと活力創出に注力する。	流山おおたかの森駅前広場における施設整備による都市機構の強化と、賑わい創出について、官民連携の取り組みを検討する。	市街地再開発・再整備事業

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input checked="" type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	毎年実施しているアンケート回答の数値を利用することにより、数値的な値を取得することができ、事業効果を客観的に確認することができた。その結果、目標値を大きく上回る数値を達成した指標5については、実施事業が市民にとって有意義であったことが市民の実感として表れていることを確認できた。	都市再生整備計画作成時に、地区の特性に応じた課題と目標を明らかにすることにより、事業を集中し、適切な数値目標を設定する必要がある。
	うまくいかなかった点	公園や駅前広場等の整備は市民等の生活に直結するものであり、効果があったものと考えているが、指標1～4は目標値に達することができなかった。その理由として、継続的なデータを取得するため、毎年実施している市民向けアンケートを活用し、流山おおたかの森駅利用者の回答を利用しているが、事業箇所効果を的確に反映しているとは言い難い点があった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	本計画では、公園や緑地、駅前広場など、さまざまな施設の整備を行ったため、それぞれの事業が指標2、3に良い影響を与え、まち全体として魅力が向上したと思う。指標2については、概ね目標値に達しており、居住環境の整備が住み心地の良さの向上に寄与したものとする。	定量的な指標で示される達成状況では測れない事業効果もあると思われる。より適切な数値目標の設定と、事業効果の影響について検討する必要がある。
	うまくいかなかった点	反対に指標値のような数値では測れない効果もあることや、コロナ禍で人々の生活様式が大きく変わってしまったことで、指標4の値が目標を下回るなど、想定外の影響が生じた。	
住民参加 ・情報公開 ・官民連携	うまくいった点		
	うまくいかなかった点	・国土交通省の「都市再生整備計画等 評価の手引き 令和4年度版」に則り、適切に作成されている。 ・該当駅を利用する市民を対象としていることからその評価に一定の妥当性は認められるが、理想的には本計画の事業地・事業内容についてその利用者を対象に個別に効果検証が行われるべき。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業関連制度の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

南流山駅周辺地区(H29-R4) R5年度事後評価予定

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和4年11月21日～12月5日	令和4年11月21日～12月5日	担当課への郵便、 電子メール、FAX等	総合政策部企画政策課
広報掲載・回覧・個別配布	市の広報に掲載	令和4年11月21日号	令和4年11月21日～12月5日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	企画政策課窓口において供覧	令和4年11月21日～12月5日	令和4年11月21日～12月5日		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	日本大学名誉教授 横内 憲久 氏 千葉大学大学院教授 木下 剛 氏 筑波大学客員教授 飯田 直彦 氏	令和5年1～2月	総合政策部企画政策課	—	—
その他の委員	なし				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	<ul style="list-style-type: none"> 国土交通省の「都市再生整備計画等 評価の手引き 令和4年度版」に則り、適切に作成されている。 該当駅を利用する市民を対象としていることからその評価に一定の妥当性は認められるが、理想的には本計画の事業地・事業内容についてその利用者を対象に個別に効果検証が行われるべきである。
	成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> 毎年実施しているアンケート調査の結果を客観的数値として用いているのは適切である。今後は精度を上げるために被験者の選定や母集団の設定が正しく行われているか十分に検討されたい。 市総合計画の改訂や、計画における実施事業の追加に伴い、目標・指標を修整したことは妥当であると考え。 指標の目標値の設定方法が不明であり、適切であったかの判断が難しい。
	実施過程の評価	<ul style="list-style-type: none"> 流山おおたかの森駅北口都市広場について、隣接する民間所有の広場と一体的な歩行空間として効率的・効果的に整備し、維持管理についても事業者と連携して効率化を図っており、持続的なまちづくり体制の構築にも通じるもので評価できる。経緯についても記述があるとおお良かった。 「モニタリングの実施状況」「持続可能なまちづくり体制の構築状況」について、本計画に記載せず、事後評価の対象としなかった理由が不明である。
	効果発現要因の整理	指標5について <ul style="list-style-type: none"> 基幹事業と親和性があると考えられ、公園の高質化や緑化促進などは効果に結び付いたと考えられる。 事業整備により子育てに参加する市民が世代を超えて利用することができることから、指標5の向上に貢献すると市が考え、目標値を達成できたことは妥当であると考え。 アンケート回答者が「子育てがしやすいまちだと思う」かどうかは、総合的に判断されることであり、当該計画による効果であるかどうかはもっと詳しい調査や分析が必要と思われる。 指標1-4について <ul style="list-style-type: none"> 必ずしも基幹事業と深く関連があるとは言い難く、コミュニティ等心的要素もあると思われる。施設整備以外の取組みの必要性もあると考え。 今後の市人口の高齢化や人口定着が進み、定住に伴って地域活動が増え、市民相互の交流が高まることにより、指標値も高まると思われる。 目標を達成できなかった理由の分析がなされていないことや、まず従前値より数値が下がったことについての分析が必要であることを踏まえ、各指標の総合所見での「魅力度の向上」については、根拠や計画の効果であるについてより詳細な調査や分析が必要と思われる。
	事後評価原案の公表の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 公表の方法としては適切であるが、住民からの意見が「ない」ため、HPIにまで至る周知方法の改善が必要である。 当該施設等を見守る、エリアマネジメント等のような住民組織を育て関心を持たせることも周知に役立つと思われる。 原案とともに公開した計画本編について、各事業の竣工図やイメージ図をもっと多用すべきではないか。 各事業のアウトプットを分かりやすく説明し、それに対して意見を出してもらい、という方法が望ましい。意見募集の方法を工夫されたい。

	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施の効果のみで数値目標を達成するという一対一の目標・手段関係は難しく、「定量的な指標で示される達成状況では測れない事業効果もあると思われる。より適切な数値目標の設定と事業効果の影響について検討する必要がある。」の記載に同感である。「他の事業も並行して実施することにより設定した効果が上がった」「効果を短期的なものの中長期的なものとの二段構えとした」といった工夫を希望する。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・評価値の設定や市民への公表方法、結果の分析について指摘をいただいた。 ・概ね妥当と認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺施設の維持・高質化を図る地元組織の形成・維持・向上に力を入れるべきである。 ・今後のまちづくりの課題は、「今いる市民の交流」「市民のみんながつかう責任」へと比重が移っていくものと考えことから、効果持続の方策を模索・検討するにあたっては、より中長期的・広域的な視点から、副指標(その事業の掲げた指標以外の目標についての到達度を示す)の開発やその目標を共有し、増進するような他の事業の模索が有効ではないかと考える。 ・添付資料5-②「達成されたこと」欄について、「快適な空間を創出する」「賑わい創出は一定程度図られた」とする客観的根拠が不明である。また、添付資料5-③「効果を持続させるための基本的な考え方」欄について、もっと詳細な説明をされたい。(→説明追記)
	フォローアップ	※本計画の事後評価では、フォローアップ調査の実施は予定していません。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの賑わいや活力づくりは、官民連携が不可欠になる。土地区画整理事業地区では、住宅、商業施設、公園、広場、道路などの空間的バリアを少なくすることが出来ると思うので積極的に検討されたい。 ・今後のまちづくりの方策は、いずれも自治組織・市民等と市との協働をベースにしていると解する。その具体的な展開の方法等が望まれる。 ・人口構成などを計測する指標としては、たとえば事業実施地区内にある小中学校の児童生徒数の推移などが考えられる。また、認知度の計測にはたとえば事業実施地区近傍にある保育所に対して園児たちのお散歩コースに当該公園・緑地などが新たに加わったか、というインタビューをすることが考えられる。 ・添付様式6の要因分析については、もっと詳細に記載されたい。(→説明追記) ・「次期計画や他地区への生かし方」については妥当と思われる。 ・維持管理や利用しやすさに加えて、「利用者の声を聴いていく」という姿勢を求めたい。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・指標では測れない効果についても考慮するよう助言をいただいた。 ・官民連携・市民協働の促進について助言をいただいた。 ・説明や分析の足りない箇所について指摘をいただいた。 ・概ね妥当と認められた。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・指標達成には調査方法の改善含め、時間を要すると思われるが、現地の様子からは、小目標①や小目標②は概ね達成されているように感じ。より重要なのは、事業完成の良好な評価を今後長期に渡り高質化させる行政やコミュニティの取り組みである。 ・今後の維持管理の官民協働を促進するためにも、市が当該事業において整備・設置されたものの意図や意味を積極的に市民に発信し、市民の利用を促すことで、達成度がより高まると考える。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
—	—	—
—	—	—

有識者の意見	—
--------	---